

泉田 昭

いずた・あきら

1931年、広島県に生まれる。

中央大学法学部、東京神学院を卒業。

練馬バプテスマスト教会牧師。

日本バプテスマスト教会連合、

日本福音同盟理事長を歴任。

東京キリスト教神学顧問。

東京ミッション研究所顧問。

聖契神学校講師。

日本聖書刊行会常任理事、

21世紀訳刊行会理事長。

国内開拓伝道会会長。

日本キングス・ガーデン理事長、

キングス・ガーデン東京理事長、

キングス・ガーデン埼玉理事長。

ホサナグループ運営委員長。

練馬区政功労賞受賞、

東京都政功労賞受賞、

厚生労働大臣表彰。

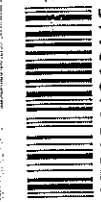
装丁: Logos Design
長尾 隆

泉田 昭
Izura Akira

いのちのことは社

キングス・ガーデン物語

夕暮れ時に、 光がある



ISBN978-4-264-0191

C0016 ¥800E

9784264019145



12560

1920016008007

定価 (本体800円+税)



夕暮れ時に、
光がある

「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらの……最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」(マタイ二五・四〇)。

このみことばに生涯をかけ、名譽や利益を求めず、全力で進んでおられる先生の姿に、信仰の輝きを覚えます。

現代における高齢者にとつてのオアシスである「主の園」、キングス・ガーデンには、神の不思議な導きと、奇蹟に満ちた恵みの力を感じさせられます。

私も九十の齢になりました。宣教の働きに長年たずさわることができました。主の憐れみであり、感謝なことでございます。

各地の「キングス・ガーデン」は、天国に向かう安心な待合室としてゆつくりくつろげる所です。主が与えてくださる祝福をこれからも期待いたします。

この『夕暮れ時に、光がある——キングス・ガーデン物語——』を一人でも多くの方々が読まれることを願いつつ、心から推薦をいたします。

(日本福音クルセード主幹、日本キングス・ガーデン後援会会長)

推薦のことば

本田弘慈

「夕暮れ時に、光がある」(ゼカリヤ一四・七)。

なんとすばらしいことばでしょうか。

心躍る思いで、この本を拝読させていただきました。泉田昭先生の信仰姿勢と信念に基づくキングス・ガーデンに対する姿勢には敬服します。主のわざとして大きな事業を一つ一つ堅実に進めていく姿には感動を覚えます。

私の信仰の戦友である安藤伸市先生が「筑波キングス・ガーデン」の初代理事長でした。先生が召された後、大変な時に泉田先生が理事長を引き継いでくださり、良きリードをしてくださいました。泉田先生はご自身のことはあまり多くは語りませんが、お証しを見ますと、大変な苦勞があったことを知りました。

推薦のことば

鈴木留蔵

「都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである」(黙示録二二・一三)。

二十一世紀を迎え、主の再臨も近いと言われている今、泉田昭先生が『夕暮れ時に、光がある』と題してすばらしい本を出版されますことを感謝し、心よりお喜び申し上げます。

練馬バプテスト教会の牧師として宣教に励んで大教会をつくり、日本バプテスト教会連合を今から三十五年前に創立し、理事長として連合の発展のために全力を注いで指導に当たられました。

日本福音同盟の理事長としても活躍されました。

また、泉田先生は、日本の高齢者福祉のためにも、神の導きを与えられ、茨城県水海道市に「筑波キングス・ガーデン」を、さらに埼玉県川越市に「川越キングス・ガーデン」とケアハウス「主の園」を設立され、東京都に「練馬キングス・ガーデン」を建設し、それらの理事長として経営と良き指導の当たっておられます。日本各地でも、多くの施設と協力し、良き指導と運営に当たっておられることは感謝に堪えません。

そして、老人ホーム、ケアハウスに入居している方々をキリストに導き、救いに至らしめています。多くの高齢者が救われて、天国に勝利の凱旋をしています。これからも、多くの方々がキリストを信じ、神の子となり、神の相続人となって天国へ赴くことを祈るものです。

(世界キリスト教信徒連盟総裁)

6

波乱に富んだ人生の航海を終え、静かな港で、幸いな時を感謝と喜びにあふれて共に過ごしたいものである。

著者

はじめに

日本は今、世界に例を見ないスピードで、高齢社会を迎えている。それだけではなく、少子化と核家族化により、さらに女性の社会進出と活躍によって、また人々の意識の大きな変化によって、高齢者には厳しい時代となった。日本は近代化しながら、高齢者には砂漠のような国になってしまった。

そのような日本において、キングス・ガーデンはその多様な働きによって、高齢者にとってオアシスである主の園をつくらうとしている。それは、不思議な神の導きであり、恵みと奇蹟に満ちた物語である。その物語を語ることによって、現代に生きて働く神の力を共に味わいたいと思う。

「夕暮れ時に、光がある」という聖書のことばがあるが、人生はその最後の生き方が最も大切であり、高齢者のために何をするべきかが今日の最も重要な課題である。

7

目次

推薦のことば 本田弘慈
鈴木留蔵

はじめに

第一章 夕暮れ時に、光がある 13

1 夕暮れ時に、光がある 13

2 生涯現役 17

3 ゴールデン・サンセット 24

8

第二章 砂漠を主の園にする 30

- 1 主の園にする 33
- 2 全国に広がる 38
- 3 多様なニーズに応える 48

第三章 わたしにしたのである 53

- 1 主に仕えるように 55
- 2 協力牧師会 58
- 3 ボランティア活動 61

第四章 すべてが益となる 65

- 1 のぞみ丘診療所 66

- 2 ピンチはチャンス 69
- 3 新しい福祉の時代 73

第五章 上を見上げ、前に向かって 81

- 1 失意の中から 81
- 2 実を結ぶ秋 84
- 3 上を見上げ、前に向かって 88

資料 キングス・ガーデン関連施設一覧 91

あとがき

第一章 夕暮れ時に、光がある

「その日には、光も、寒さも、霜もなくなる。これはただ一つの日であって、これは主に知られている。昼も夜もない。夕暮れ時に、光がある」(ゼカリヤ一四・六七)。

1 夕暮れ時に、光がある

預言者ヨエルは言った。

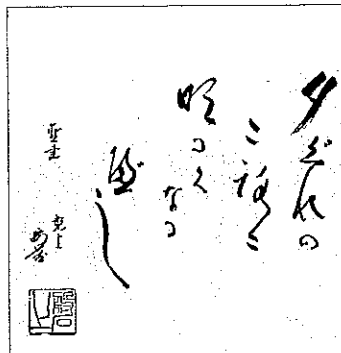
「その後、わたしは、わたしの霊をすべての人に注ぐ。

あなたがたの息子や娘は預言し、

年寄りも夢を見、若い者は幻を見る」(ヨエル二・二八)。



安藤伸市先生（上）と先生の書（下）



題して、次のように書いておられる。

「一九四九年の秋から暮にかけて、急に老化現象が著しくなり、肉体の限界と焦りを感じていたある夕暮れに、突如『夕暮れの頃に明るくなるべし』（ゼカリヤ一四・七）の天来の御声に魂をゆすぶられ支えられた。……ところがどうであろう。あれからまばたきの間に三十五年が経ってしまった。この二月一三日はカレブと

すべての人は夢を見、すべての働きは幻によつてはじまる。夢は現実となり、幻は実現する。

三谷六郎夫妻は、老人福祉に使命を与えられたが、土地も金もなく折っていた。導かれてカナダやアメリカの老人ホームを見てまわり、最後にたどり着いたのがシアトルにあるキングス・ガーデン、現在のクリスタである。そこは、キリスト教の精神で運営され、賛美と喜びにあふれていた。帰国後、通っていた世田谷中央教会の牧師、安藤伸市先生に相談し、そのヴィジョンの実現に向けて努力をはじめた。

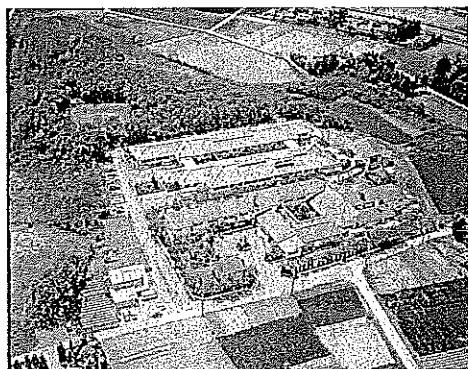
安藤伸市先生は、日本福音同盟の実行委員長をされ、キリスト教界のすぐれた指導者であつた。安藤先生は大型晩成の人であつた。一九〇〇年二月、鳥取県日野郡黒坂村に生まれ、そのころすでに八十歳に近かつた。「まじめの安藤」とも言われ、多くの働きのまじめ役をしておられた。募金のための後援会長に島村亀鶴、副会長に本田弘慈、鈴木留蔵氏がなり、私は日本福音同盟の副実行委員長をしていたので、協力することになった。

安藤先生は、抱擁力のある温かい人柄、すぐれた文の人で、「八十五歳の挑戦」と

2 生涯現役

日本におけるキングス・ガーデンの働きは、多くのすぐれた人生と信仰の先輩たちのご指

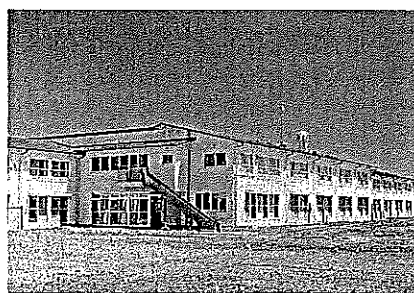
設立、資金の調達のために、血みどろの努力を続けられた。チャリティー・コンサート、廃品回収、全国的な募金が行なわれた。そして、二階建ての建物が完成した。キングス・ガーデンとは、王の庭のことであるが、その庭園の完成のために、中嶋自動車会長・中嶋栄三氏が多くの桜の木などを寄付して協力された。感激のうちに、落成式が行なわれた。それから二十年、二〇〇一年四月には、創立二十周年の感謝集会がもたれた。現在の施設長は張博一氏である。



筑波キングス・ガーデンの全景

揮された。

その土地にまず軽費老人ホームを建てることになり、二千坪の土地の取得のために八千万円、建設のために二億五百万円の予算がたてられた。三谷夫妻は、法人の



筑波キングス・ガーデン、軽費老人ホーム

同様『今や私は、きょうで八十五歳になります』という立場に立たされた」

キングス・ガーデンのために、このゼカリヤの預言のことばをもつて励まし、指導された。

キングス・ガーデンの場所として、伊豆の地方も検討されたが、茨城県水海道市にふさわしい土地があるというので共に見に行つた。緑に恵まれ、田園風景に彩られていた。その土地を取得して、キングス・ガーデンをつくることになった。水海道教会の松山潔牧師は、すでに児童館なども運営し、市との関係も深く、その建設に大いに力を発

導と協力によって進められてきた。その方々は、文字通り、人生の終わりに至るまで、明るく輝き、すばらしい働きをしておられる。

聖路加病院の理事長であり、また院長でもある日野原重明先生は、日本キングス・ガーデンの顧問として祈り、指導してくださった。現在も、現役として医療面で活躍しているだけでなく、日本におけるすぐれたホスピスの働きを実現し、政府関係の委員として活躍し、多くの著作と講演で超多忙な日々を過ごしておられる。

キングス・ガーデンの諸施設を建設するためには、約十―三十億円の巨額の資金を必要とする。その四分の三は国や県から補助されるが、四分の一は自己資金で賄わなければならない。二億から六億円の資金を調達することは、決して容易なことではなく、信仰と血のにじむ努力が求められる。幸い、多くの方が犠牲的に協力してくださり、感謝のことばもない。特に本田弘慈先生は、島村亀鶴先生の後を継いで後援会長の重い任を果たし、協力してくださっている。

本田弘慈先生は、すでに九十歳に達せられるが、福音の勝負師として、日本だけではなく全世界にキリストの福音を大胆に伝えてこられた。一九五六年から四十五

年間、百八十万人を超える会衆に福音を伝え、十三万人の方が入信の決心を、六千五百人の方が献身の決意をしている。驚くべき恵みの働きであり、それによって日本における宣教の働きは目覚ましく進展した。

生涯現役として働けることは幸せであるが、福音のために生涯働き続けることは、最高のさいいいであるということができる。

日本国際ギデオン協会を中心に多方面の奉仕活動をしている鈴木留蔵氏は、日本キングス・ガーデンのためにも犠牲的な協力を惜しまれなかった。

鈴木留蔵氏は、一九一〇年山形県に生まれ、小学校三年のとき親元を離れて働かなければならなかった。しかし、独学で学び、主人から商売のコツも教えられ、ヨセフのように知恵を身につけていった。二十歳になったとき、徴兵検査があり、甲種合格、山形にある第四師団に入隊した。除隊後、屋代高等学校で教え、その後、横須賀海軍施設で働くようになった。そして、お見合いによって英子夫人と結婚するのであるが、やがてその英子夫人に導かれてクリスチャンとなる。

最初、「鈴木工務店」をはじめ、同じ基督兄弟団の信徒理事である青木運之助氏の紹介で千葉工業大学の建築を請け負って、その事業は大きく発展する。ただし、鈴木氏は神を第一とする信仰、聖書に生きる生活、すぐれた洞察力によって、経済的危機の中にあっても、「そのなすところ、みな栄え」た。

一九九六年、大腸がんのために大手術、そのとき夢を見た。天使に導かれて天国の入口まで行き、そのすばらしさを見せられた。すると、天使の声があった。

「おまえはまだ入れない」

「どうして、私はあんなに奉仕してきたのに」

「まだまだ地上でなすべき奉仕が残っているのではないか。天に宝を積むことも足りない。それをやり遂げてから来なさい。もう一度健康にしてあげるから、地上に戻るのです」

十四日間意識不明で、家族は葬儀の準備までしていたが、健康を取り戻した。

鈴木氏を救いに導き、働きを支えてきた英子夫人は、七十二歳の時から腎臓病をわずらい、一九九九年九月、八十二歳で主のもとに召された。人間的には悲しみと

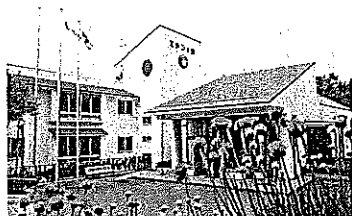
孤独の中にあるが、天国がより身近になり、ますます元気に地上における働きを、生涯現役の確信をもって誠実に果たしておられる。二〇〇一年、世界キリスト教信徒連盟の総裁に推された。二〇〇二年春には、世界大会が東京において開催される。

一九九八年、宮城県気仙沼市で行なわれた日本キングス・ガーデン連合の研修会を終え、私は渡辺夫妻と車で福島市に向かった。野田信光氏はいつも研修会に参加し、良い交わりを持っている。

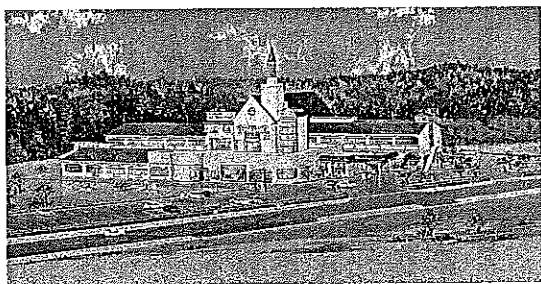
その父君である野田新弼氏は、一九一七年福島県伊達郡保原町に生まれ、小学校を卒業後、満州鉄道に入り、講習所で学ぶ。戦後福島に帰り、三慶塗装をはじめ。しかし、それに至るまで厳しい道があり、三芳子夫人の苦しい戦いもあった。その三慶塗装もやがて倒産し、銀行からは取引停止、実家から見放され、新弼氏はついに自殺まで追い詰められる。

「日本天皇道」「生長の家」などに救いを求めるが得られず、たまたま立ち寄った書店でピンセント・ノーマン・ピールの『確信に満ちた生活の手引き』が目にとま

高齢社会においては、まず自立していかに生きるべきかが問われる。「夕暮れ時に、光がある」と言われているように、まず私たちが信仰によって自立して、信仰により生涯現役の働きをすることが何より大切である。



エデンの園(上)と聖・オリーブの郷(下)



ープの郷老人保健施設、特別養護老人ホームを生み出した。私は、それらの施設を視察しながら、行き届いた施設の管理、明るく輝いている職員の姿に深い感銘を受け、一九九九年の研修会を福島市で開催することを決めた。

「キングス・ガーデンは、『夕暮れ時に、光がある』という聖書のことばによってはじめられたが、ここ川越キングス・ガーデンはゴールデン・サンセット(黄金の日没)の場でありたい。終わり良ければすべて良し、ということばがあるが、長い人生の旅路の終わり、最も良かったと言えるような時を共に過ごそう」

人生は航海にたとえることもできる。その長い航海においては、穏やかな日もあれば、激しい嵐に襲われる時もある。希望に輝く時もあれば、絶望の淵にたたずむ日もある。波乱に富んだ人生を過ごされた方々が、キングス・ガーデンにおいて、人生で最も素晴らしい時、まさにゴールデン・サンセットと言える終わりの日々を

り、買って読んだ。「知らなかった。キリスト教って、こんなに人の心に勇気を与える立派な宗教なんだなあ。よし、おれも教会へ行ってみよう」と決心して、バプテスト福島伝道所を訪ねた。ビショップ宣教師と穂積牧師に導かれ、回心した。家族もクリスチャンになり、自宅で集会をするようになった。

これから何をしたらよいのか、穂積牧師に尋ねると、「学校をつくることですよ」と言われた。「メダカの学校じゃあるまいし、そんなに簡単に学校がつくれるものか」と驚き呆れていると、穂積牧師は、「バイブルにもあるとおり、二人が心を一つにして折るなら、神は必ずそれをかなえてくださいます」「もし、からし種ほどの信仰があつたら、この山に、『ここからあそこに移れ。』と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません」(マタイ一七・二〇)と励まされた。

折りと信仰によって、高校である聖光学院を創立し、自動車学校、英会話学校、そして幼稚園、保育園を次々と生み出していった。それは、折りによる恵みの奇蹟の連続であり、神が生きて働いておられるしるしでもあつた。それだけではなく、一九八二年にはエデンの園軽費老人ホーム、続いて十字の園有料老人ホーム、聖・オリ

3 ゴールデン・サンセット

川越にキングス・ガーデン特別養護老人ホームをつくる時、約三千坪の土地を購入し、定礎式を行なった。多くの関係者が集まり、私は、マタイの福音書七章二四―二七節から、「愚かな者は砂の上に、賢い人は岩の上に家を建てた、建物には土台が大切で、土台がしっかりしていないとドライしようがない」とメッセージをした。工事がはじまると、三回台風が襲い、現場はまるで湖のようになった。私たちは驚き、肝を抜かれた。近隣の人たちの話によると、その土地は砂地ではなく沼地であるという。

私たちは急遽、計画を変え、三千坪の土地をすべて二メートル土盛りして高くし、基礎工事を念入りにすることにした。それで、再び台風が襲ってきても大丈夫であると確信し、あの台風が建物が完成してからではなく、工事がはじまった時で良かったと感謝した。建物が建ってからだと、毎年のように浸水する恐れがあつたから

である。神は、すべてを知り、すべてを益としてくださる。

浸水の心配がなくなっただけではなく、二メートル高くしてその上に建物を建てたので、窓から見る景色もすばらしくなった。特に、夕暮れ、日没の光景には目を見張る思いであつた。田の向こうに森があり、その森に太陽が沈むとき、すべては黄金の色に染まった。まさに、ゴールデン・サンセットであつた。そこで、開所式のメッセージで言った。

「キングス・ガーデンは、『夕暮れ時に、光がある』という聖書のことばによってはじめられたが、ここ川越キングス・ガーデンはゴールデン・サンセット(黄金の日没)の場でありたい。終わり良ければすべて良し、ということばがあるが、長い人生の旅路の終わり、最も良かったと言えるような時を共に過ごそう」

人生は航海にたとえることもできる。その長い航海においては、穏やかな日もあれば、激しい嵐に襲われる時もある。希望に輝く時もあれば、絶望の淵にたたずむ日もある。波乱に富んだ人生を過ごされた方々が、キングス・ガーデンにおいて、人生で最も素晴らしい時、まさにゴールデン・サンセットと言える終わりの日々を

生きられるように願っている。

人生のゴールデン・サンセットをキングス・ガーデンで迎えている人は多い。筑波キングス・ガーデンは、その愛の接遇が茨城県下でも高く評価されているが、毎朝六時から行なわれる早朝の祈禱会も大きな祝福の源流となつてゐる。軽費老人ホームの入居者の自主的な集いであり、聖書を一章と榎本保郎牧師の本を読み、各界の指導者やキリスト教界の働きのために祈つてゐる。入居者の植草淑子さんは、「冬の六時は寒く、起きにくい時もありますが、みことばに励まされ、恵まれ、喜んで参加しています」と言つておられる。

福島市にあるエデンの園は、一九八二年に開設されたが、堀江ミネさんは次のように語つておられる。

「入居しての第一印象は、エデンの園は良い所で、職員はみな親切です。入居して一番驚いたのは、園内に牧師がいることで、毎週早朝礼拝・聖書研究会・祈り会があることです。私も出席するようになり、信じてバプテスマを受け、主の恵みはすばらしく、感謝でいっぱいです」

川越キングス・ガーデンに入居している松岡喜代子さんは、次のように記しておられる。

「この川越キングス・ガーデンを知るまで、楽しいことは一度も経験したことがありません。知的障害の長男を持ち、その子が暴れるので、私はいつも恐れていました。その子の障害は私のせいだと、自分を責め続けていました。しかし、キングス・ガーデンに入り、ほんとうの神さまを知りました。息子の障害も私のせいではなく、神の恵みと思うようになりました。神様の愛を知り、バプテスマを受けました。不思議なもので、息子もだんだん良くなり、ときどき会いに来てくれます」

やまじいこい苑の大野恒子さんは、園における生活は窮屈ではないかと心配していたが、職員は優しく、入居者は喜びにあふれており、大勢の友達もでき、毎日楽しく明るい日々を過ごしておられる。

練馬キングス・ガーデンの高橋静枝さんは、ご主人が厳格な教育者であり、また教育委員長を勤めておられた。キングス・ガーデンに入居し、クリスチャンである娘さんたちの祈りもあって、集会に出席しはじめ、バプテスマを受けられた。今は

26

27

つねに「感謝です」と語り、上を見上げ、前向きな生き方をしておられる。

川越キングス・ガーデンの福田信さんは現在九十六歳であるが、キングス・ガーデンは天国の待合室であると言ひ、次のように語つておられる。

「歳をとつて親友ができるとは思つていませんでしたが、キングス・ガーデンで無二の親友ができ、良い交わりが生まれ、ほんとうに感謝でした。でも、その方は昨年九十二歳で天に召されました。寂しくなりましたが、天国が親しくなりました。そう遠くない日、天国でお会いできるのが楽しみです。天国の希望をもつて、毎日生きていられるので感謝です」

聖書キリスト教会の西松新平氏は、教会における長老としての奉仕、会社における働きに加え、神学校で聴講している。八十六歳の母は俳句をつくり、自然を慈しみ、西松氏の妻の介護を受けていた。しかし、その妻が胆石症のために緊急入院し、だれも介護できない状態になつた。そこで、急遽、練馬キングス・ガーデンに入所し、キリストにある職員の親身なケアを受け、喜びの日々を過ごされた。その間、妻の父の病氣、召天も重なつたが、すべてが守られた。

西松氏は「薄暗闇になる夕暮れ時に、ガーデンでの母の介護を通して主の光を垣間見させていただき、心から感謝しています」と語つておられる。

呉ベタニアホームで生活している黒坂璋氏は、街の中にあるケアハウスでの生活をエンジョイし、町の人も参加するコーヒータムを楽しみ、散歩の途中立ち寄る呉港棧橋から瀬戸の海と航行する船を眺め、考えた。「すべての船舶には羅針盤と海図が備えられている。これなしでは、いくら外観、整備が完璧な豪華船であっても、無事に目的地に着くことはできない。私たちの人生についても同じことが言える」そして、ケアハウス・ベタニアホームにおける毎日の生活を生きて生き、天国を目ざして過ごしておられる。

稲垣とめさんは、「さまざまな宗教を遍歴し、四国八十八か所巡りをしたりしていました。しかし、やまじいこい苑に入ってから、毎日の集会に出るようになり、美しい自然を造られた神を知り、祈りに応えてくださることがわかりました。神の子とされた喜びにあふれ、毎日賛美の生活を過ごしています。欲を言えば、もっと早くこの神様にお会いしたかったと思つています」と語つておられる。

28

29

第二章 砂漠を主の園にする

「その砂漠を主の園のようにする。

そこには楽しみと喜び、

感謝と歌声とがある」(イザヤ五十一・三)。

深夜、電話のベルが響いた。時計を見ると十二時近い。だれであろう、何であろう、不安な気持ちで電話を取った。

「先生、だれかが部屋に入ってきて来ている。すぐ来てください」

私は民生委員をしているが、近くに住んでいる吉沢さんである。彼女は九十二歳。若いころ夫を亡くし、小学校の先生をしながら、二人の息子を育てた。長男は医者。次男は大学教師になった。吉沢さんは、女手一つで二人を立派に育てた。しか

し、長年ひとり子どもを育て、また小学校の先生をしていたこともあって、すこぶる独立心に富み、気丈である。それがわざわざいして、二人の息子の嫁たちの仲がこじれてしまい、ほとんど交流がない。それで寂しさのあまり、ときどき電話がかかってくる。

急いで着替え、家に行ってみると、部屋には吉沢さんのほかだれもいない。

「だれもいないではないですか」

と言うと、

「そこにいるでしょう。見えないの」

と答えた。

吉沢さんは、極度の孤独と不安のために、幻聴と幻視に陥って電話をしてきたのである。

このように、老いて直面するものは孤独であるが、また介護の厳しい現実もある。

その一つが、いわゆる老々介護である。私がやはり民生委員として担当しているその一人に吉沢さんがいる。彼女は現在七十二歳であるが、もともと病弱で、最近

はひどい腰痛に悩まされている。そのうえ、九十四歳の寝たきりの老いた母親の介護をしており、心身共に疲れ果てている。食事の世話ができるが、入浴その他の介助はできない。そこで、私はホーム・ヘルパーの派遣を要請し、家庭における介護を続けている。

小林さんは、父親の会社を継いで日夜その経営に努力している。父親は九十歳であるが、すこぶるブライドが高く、気むずかしい。お嫁さんが献身的にお世話をしているが、すべてが気に入らず、叱言の連続。そのために家庭はいつもトラブルが絶えず、お嫁さんは心身共に疲れ果ててしまった。

これまで、息子の嫁の世話になるとか、娘の家族とともに暮らす例が多かったが、今はそれもむずかしくなってきた。時代は移り、人の意識は変わり、高齢者には砂漠のような世界になった。キングス・ガーデンは、その砂漠を主の園にする使命をもって、その働きをしている。

1 主の園にする

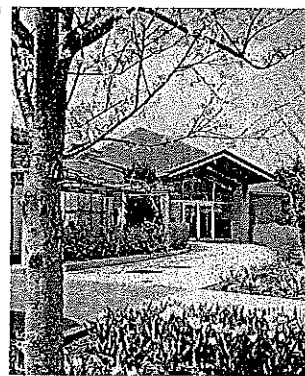
「その砂漠を主の園のようにする」という理念のもとで、キングス・ガーデンの働きははじめた。筑波の里にキングス・ガーデン軽装老人ホームができたとき、その理想に燃えて全国から多くの方々が入居された。それらの中に、益田泉先生をはじめ幾人かの女性教職もおられ、さまざまな教会の信徒も少なくなかった。また、一般から入られた方々も多くいた。信仰の立場や教会の背景は異なっても、一つ心になつて「主の園にする」熱い思いに燃え、その生活をはじめた。

それは、一九九五年、川越にケアハウス「主の園」がつくられたときも同じであった。多くの教派からそれぞれの背景を持つて、また豊かな社会経験を携えて、入居される。東京に近く交通に便利であること、ケアハウスのグレードが高いこともあって、社会で活躍された方の入居も少なくない。そして、キングス・ガーデンを理解し、また共鳴し入所し、共に生活をしておられる。

のためにむずかしくなった。

その時、理事の森山諭先生が尽力され、計画は具体化した。理事長の安藤先生は病床にあり、実務は副理事長である私が担わなければならなかった。松山潔先生が建設委員長となつて、その完成に努力された。多くの困難もあったが、特別養護老人ホームは立派に完成し、続いてチャペルもできた。その後、宇都宮和子氏が施設長となり、在宅福祉棟を建て、行政と地域から高い評価を受けたケアを行なっている。

川越キングス・ガーデンは、はじめに特別養護老人ホーム（施設長・児島康夫氏）ができ、さらに広いニーズに応えるためにケアハウスを建てることになった。建設委員長は村上氏で、土地の取得と建築のために尽力したが、さまざまな行き違いのために辞任された。厳しい試練に直面したが、理事の中嶋栄三氏が建設委員長の重くむずかしい責任を負い、立派に完成された。三階には茶室や温水プール、二階には二百五十名集まれるチャペルもある。超豪華なケアハウスであり、八十六名の方が入居できる大型施設である（園長・山崎公三氏）。



筑波キングス・ガーデンのチャペル

「小人は同じ和せず、大人は和して同せず」とあるが、それぞれの個性を大切にしながら全体の調和を育てることはほんとうにむずかしい。また、入居者を管理するのではなく、自由で主体性のある生き方を尊重する大切さも教えられた。

筑波キングス・ガーデンは、はじめに軽費老人ホームがつけられたが、入居者が加齢するために病弱になる方が現われ、特別養護老人ホームを建てた。当初そのためにある方が、私財の一部をささげることを申し出られたが、さまざまな行き違い

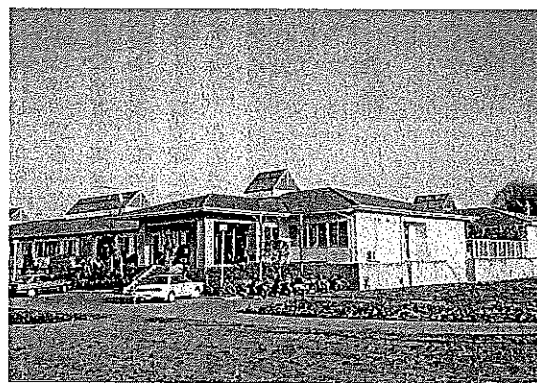
軽費老人ホームにしても、ケアハウスにしても、六十歳以上で健康であり、基本的には自分のことは自分でできる方が入居することになっている。自立した者が共同の生活をするのである。それは、やさしいようでもむずかしい。同じ問題についても、個性が異なると、意見も違ってくる。その調整に愛と知恵が求められる。中国の諺に

これらの経験から、多くのことを教えられた。

まず夢を持ち、理念を明らかにすることである。夢がなければ、実現もない。理念が明らかでないと、共鳴し協力する者も現われない。大きな時代の流れを見、社会の必要に応えるビジョンが示されるとき、多くの人が協力をはじめる。

次に、大きな働きには多くの困難がある。人をめぐって、経済に関して思いがけない問題が生じてくる。しかし、問題があることが問題なのではなく、問題をどう解決するかが問題である。問題を正しく解決したときに発展があり、また、神は解決の道を必ず備えておられる。

最後に、神の力は人間の弱さの中に働くことである。人間的には幾度行き詰まったことであろう。そのとき、神は思いがけない人を備え、想像を超えた方法で解決してくださる。人が自らの弱さを知ったとき、神は生きて働かれる。「わたしの力は、弱さの中に完全に現われる」（Ⅱコリント二・九）と言われているとおりである。



川越キングス・ガーデン、特別養護老人ホームの正面



川越キングス・ガーデン、ケアハウス「主の園」



共生園

談をしたり、手続きをしたりしなければならぬ。ついに、ミエも外聞もなくなり、実行力にすぐれている堀内顕牧師にすべてをお願いすることにした。幸い、その申し出を快く承諾して、理事長に就任して下さった。また、福祉行政に経験豊かな東安広氏が協力され、多くの方の参加と協力によってその働きは進められた。そのようにして、特別養護老人ホーム「共生園」が完成し、東氏が初代施設長に就任した。現在は堀内幸子氏である。さらに、大台町に複合施設「大台共生園」(施設長・堀内剛親氏)がつくられた。

宮城県気仙沼市に、佐藤春子さんという方が住んでおられる。気仙沼市にもキングス・ガーデンをつくりたいとの相談があった。ご主人は医師で、気仙沼市の医師会の会長もしていたが、救われてクリスチャンになられた。そして、夫婦揃って、神と人にとにかく働きをしたいと折っておられたが、ご主人が主のもとに召されてしまった。そのご主人の遺志を継ぎ、気仙沼市にキングス・ガ

2 全国に広がる

筑波に特別養護老人ホームが完成するころ、三重県出身で鹿島にある会社で働いている方が訪ねて来られた。キングス・ガーデンを郷里の三重県度会郡大宮町につくりたい、そのために土地を提供したい、西宮市にある家を売って、資金として用いたい、とのことであった。

早速、大宮町に赴き、土地を見たり、柏木町長にお会いした。調べてみると、一つの町だけではつくることはできないので、隣の紀勢町や大台町などの話し合いが必要であることがわかった。紀勢町の谷口町長に会々と、誘致にすこぶる熱心で、紀勢町につくってほしい、市有地を提供してもよい、とのことであった。実際には、その土地は購入することになるが、そのようないきさつで紀勢町に特別養護老人ホームをつくることになった。

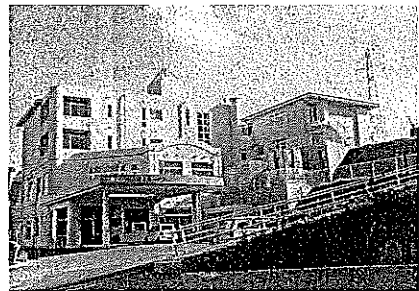
一つの施設をつくるために、しばしば三重県庁に赴いたり、地元の町を訪ねて相



キングス・ガーデン金沢

教会としていた森正義牧師が就任された。石川県内灘で実り多い牧会をしている横山幹雄牧師は、高齢化する社会における教会の働きとして、キングス・ガーデンをつくりたいと折っておられた。そこで、シアトルにあるキングス・ガーデン、ニュージャージー州アトランティック市で教会の一室からはじまったケアリングの働きを視察し、教会の働きとしてのグループホームをつくることを決められた。キリストにある高齢者が共に生活し、昼間は教会が奉仕できる場となる、そのようなホームをつくりたいと願われるようになった。

そこで、同じ教団である聖書教会連盟が協力して取り組むことになり、金沢市に「キングス・ガーデン金沢」が誕生した。山口夫妻が、施設長として献身的に奉仕しておられる。

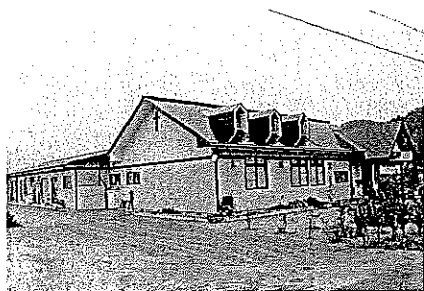


南三陸キングス・ガーデン

ーデンをつくることを思い立ち、相談に来られたのである。

私は気仙沼市に赴き、その町や候補地を見、協力してくださる阿部夫妻や松下さんにお会いした。その折りと計画を聞き、施設をつくるノウハウを話し、共に折った。その設立の実務については、東氏も協力することになった。

現実の一つの高齢者施設を建てあげるためには、行政との忍耐強い交渉、協力体制の確立、土地の確保、資金の調達、建設業者の選定、近隣住民との話し合いなど、むずかしい問題が多くある。そのために佐藤春子さんはしばしば相談に来られたが、また静かな山に退き夜を徹して祈られるようになった。そのとき神は奇蹟的にそれらの問題を解決してくださり、やがてケアハウス「南三陸キングス・ガーデン」が完成した。施設長には、仙台で

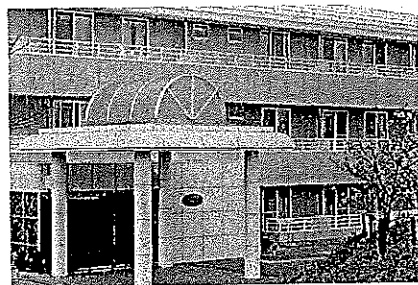


飛驒ハレルヤ・ホーム 望郷苑

て心を痛め、そのような方々のために教会にしっかりと結びついたホームをつくりたいと考え、導きを求めておられたのである。

それらの祈りの実として生まれたのが飛驒ハレルヤ・ホーム望郷苑であり、「さらにすぐれた故郷すなわち天の故郷にあこがれ」ながら（ヘブル一・一六）、主にある地上の生活を共に生きる場である。

群馬県北群馬郡白井において、高田泰男氏は不登校の児童のために施設をつくって、その教育のための働きをはじめられた。やがて終身介護型の老人ホーム「ナーシングホーム白井城」をつくり、高齢者福祉にも取り組むようになった。献身的な介護、自然に恵まれた環境、調和のとれた栄養管理によって、理想的なケアを目指している。日本キングス・ガーデン連合の研修会にはいつも参加

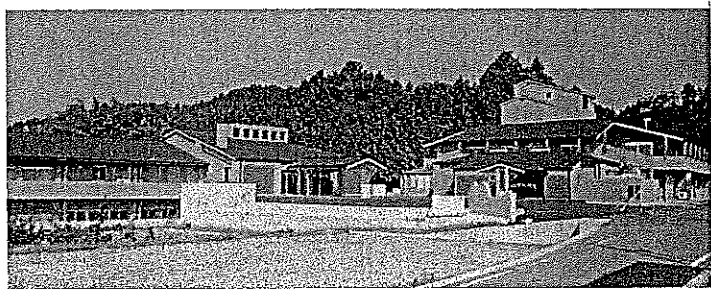


ベタニヤハウス

三重県津市で牧会している村上久牧師は、「キングス・ガーデン三重」の理事として共生園の働きに協力していたが、病院伝道で救われた方の遺志と献金を生かし、津市にも高齢者施設をつくりたいと祈っておられた。そして、教会の隣接地にケアハウス「ベタニヤハウス」が生まれた。教会と施設が共に協力し、宣教と福祉の働きが、飛行機の両翼、車の両輪のように行なわれている。

日本キングス・ガーデン連合の研修会に、中村さんという方が参加していた。いつも笑顔を絶やさず、夫婦で高齢者のために仕えたい、そのために土地を

高山祝福教会の奥深山頼義牧師は、同じように高齢者のためにホームをつくりたいと祈っておられた。公営のホームでは安心して生涯を全うできない信徒の姿を見



山路園とやまじいこい苑

は、兵庫県氷上郡山南町から依頼され、クリスチヤンの信仰と証しの結晶として、特別養護老人ホーム「山路園」と、ケアハウス「やまじいこい苑」をつくられた。山路園の園長は澤村安由里氏、やまじいこい苑の苑長は澤村哲夫氏である。福音の僻地と言われ、教会のない地方において、地域にしっかりと根を下ろし、すばらしい証しが行なわれている。

広島県呉市の中心街である本通り商店街に、ケアハウス「呉ベタニアホーム」が建っている。市街地にある老人ホームとして、一般の雑誌にも紹介されている。

日本キングス・ガーデン連合の研修会にいつも参加している濱田牧子さんは、父親が遺した土地



シャロームホーム

し、意欲的にその働きを進めておられる。

同じように、研修会に福島第一聖書バプテスマ教会の婦人たちも参加し、高齢者のための働きについて学んでおられた。一九九四年、主にある姉妹が天に召されたが、自分名義の土地を教会にささげる遺書を残しておられた。その遺志を生かしてどのように用いたらよいか、さまざまな議論が繰り返し行なわれ、高齢者のために用いるのがよいとの結論になった。そこでルツの会が生まれ、教会におけるコンセンサスづくり、募金、計画の作成とその実現に全力を傾けた。

そのようにして誕生したのが、「シャロームホーム」であり、教会員の高齢者福祉と交わりのために活用されている。

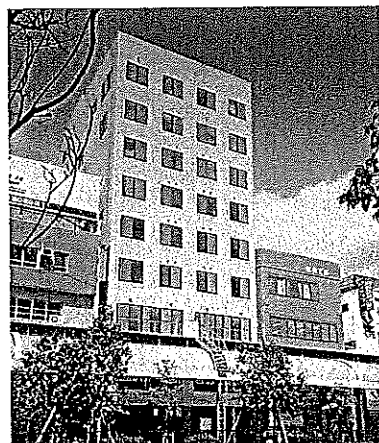
大阪市で栄光社を経営し、信徒として多くの働きに協力しておられる澤村俊治氏



練馬キングス・ガーデン

の半値で関東財務局から購入できたのである。そこで、イギリス、アメリカ、日本の国際設計チームに依頼し、これまでの日本では見られない感覚で設計し、建設した。完成した建物は、「近代建築」や「新建築」という建築の専門誌にも広く紹介された。建設委員長として、金本悟牧師が奉仕された。

都市のすぐれた環境にあり、交通も便利であり、面会に来る方も多く、ボランティア活動も活発である。施設長は、久場氏と加藤氏を経て、現在は五十嵐桂子氏である。



呉ベタニアホーム

をどのように、主のため社会のために活用しようかと祈っておられた。そこで、小宮山林也牧師が理事長になって社会福祉法人政樹会をつくり、その土地の半分の寄付とし、半分は買い取るかたちで、「ベタニアホーム」ができた。施設長は濱田牧子さんである。

私の近くに住んでいる区会議員は、筑波キングス・ガーデンを見

て、練馬にもぜひキングス・ガーデンをつくってほしいと繰り返し依頼してきた。私も同じような祈りがあり、練馬区や東京都と交渉し、その実現に努力をはじめた。土地は、有楽線平和台駅から四分、公園に面し高校の正門前の、超一等地を取得することができた。物納されたその土地を、社会福祉のために使うというので、時価

3 多様なニーズに応える

今の時代、個性が強調され、ライフスタイルは多様化し、高齢者のニーズも複雑になっている。それに従って、国の福祉政策も、時代の大きな流れとともに、大きく移り変わってきている。

最初は、高齢者は弱く貧しい存在であるという理解に基づき、養護するという政策がとられた。そして、養護老人ホームと軽費老人ホームがつけられた。養護老人ホームは生活の援助を必要とする高齢者を養護するために、軽費老人ホームは安い費用で利用できるために、それぞれつけられたものである。そこには、生活を援助するという思想の福祉政策があった。

しかし、生活の援助より身体介護の必要に視点が移り、特別養護老人ホームがつけられるようになった。身体的機能が衰えたり、痴呆になって、家族でも十分な介護ができなくなったりした人たちを、国の費用で介護しようというのである。利

用者は、本人や家族の収入に応じた負担をするということになっていた。

ケアハウスは、経済的ケアというより、むしろ社会生活のケアを必要としている人たちのため、食事をはじめとする生活上のケア、社会生活を続けるためのケア、またある程度の身体的ケアを行なう。しかし、それぞれの自由と個性を尊重し、自立した生活ができるように協力するのである。社会的背景として、日本における家族と人間関係が激しく変わり、高齢者も家族から独立して生活しなければならなくなったことがある。

日本におけるキングス・ガーデンの働きは、時代と社会のこのような大きな流れと人々のニーズの変化に応じ、移り変わってきている。

最初は筑波に軽費老人ホームがつけられ、続いて特別養護老人ホームができた。三重県や埼玉県においては、まず特別養護老人ホームができ、続いてケアハウスがつけられた。兵庫県では、特別養護老人ホームとケアハウスが同時に建てられた。福島県では、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、老人保健施設、そして特別養護老人ホームがつけられた。宮城県気仙沼市と広島県呉市では、それぞれケアハウスが

つくられた。

キングス・ガーデンは、時代の流れと社会のニーズに應えるために、最もふさわしいケアを信仰と愛をもって提供しようとしている。最近では、トータル・ケアということを、私は繰り返し強調している。それは、全人格的・統合的ケアのことである。

まず、フィジカル・ケア（身体的介護）で、生活に必要な身体的介護を行なう。つまり、食事、入浴その他すべての生活介助である。そのような生活介助とともに、医療も大切である。医師と看護婦による日常的な健康チェックと、治療活動を行なうのである。

次にメンタル・ケア（精神的介護）で、精神的なさまざまな苦しみと悩みに応えるケアである。社会における人間関係で受けた傷をいやし、親しい者を失った悲しみを慰め、家族から離れて生きる孤独に應えるために、愛の介護とともにセラピーとカウンセリングによってケアを行なう。セラピーとは、いやしのことで、音楽セラピー、芸術によるセラピー、動物によるセラピー、交わりにおけるセラピーなど、

実に多様に行なわれるようになっていく。

最後はスピリチュアル・ケア（霊的介護）である。人間はその生と死について深い不安におびえながら生きている。魂における葛藤もある。それら人間として最も根源的な諸問題に應えるために、キングス・ガーデンはそれぞれの施設に協力牧師会をつくり、礼拝、カウンセリング、交わりによって充実したケアを行なうようにしている。

また、日本キングス・ガーデン連合の中には、その多様なニーズに應えるために、社会福祉法人としてではなく、すでに見てきたように、教会の働きとしてケアを行なっているところもある。そこでは、すべてのケアが総合して行なわれやすい。ただ、国の補助がないので、利用する者の負担は重く、働く人の犠牲は大きい。教会の折りと協力とともに、介護施設を上手に活用し、充実したケアが行なわれるようにすると思う。また、グループ・ホームも、これから多くつくられるようになるであろう。

利用する方は、それらをよく調べて研究し、自らに最も必要なサービスを自由に

選びながら活用するよいであろう。最近では、地域福祉が強調されるようになり、ショート・ステイ（短期滞在）、デイサービス、ホーム・ヘルパーの派遣などが行なわれるようになった。これを積極的に利用されるのもよいであろう。そのためには、情報と知識が必要であり、それぞれの施設にある在宅介護支援センターに相談するよい。

キングス・ガーデンは、高齢者には砂漠のような現代社会において、主の園をつくりあげるために全力を尽くしている。そこには、楽しみと喜び、感謝と歌声とがあふれている。

第三章 わたしにしたのである

「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」（マタイ二五・四〇）。

高齢者福祉が国の制度として行なわれるようになって、施設の充実はめざましい。新しくしやれた建物が、全国の各地に建てられるようになった。しかし、国民の意識はそれほど変わらず、「国の世話になるのは嫌だ」という声も聞こえてくる。また、施設を運営する者たちの間には、「行政の指導は細かく画一的で、特色のある福祉を行なうのがむずかしい」という意見もある。

しかし、介護保険制度の時代になり、福祉のあり方は大きく変わってきた。国費

による措置ではなく、地方自治体が保険者となり、国民から保険料を集めて、介護サービスを提供するのである。

国民は、四十歳を過ぎると第二号保険者となり、定額の保険料を払わなければならない。六十五歳以上になると第一号保険者になり、それぞれの地方自治体が決めた保険料を支払わなければならない。多くの人は、年金等から徴収されているので、気がつかないかもしれない。そして、六十五歳になると、申請に基づいて調査と審査があり、自立、要支援、要介護1～5のうちのどれかに判定される。要支援、要介護と判定された者は、ケア・マネージャーとともにケア・プランをつくり、それに基づいてサービスを受けることができる。実際に福祉サービスを受けている人は、六十五歳以上の方の約二パーセントであり、この制度が国民に十分に理解されているとはいえない。

また、福祉サービスを提供する社会福祉法人や施設は、利用者と自由に契約し、特色のある介護をすることができる。特色のある、また個性のあるサービスを提供するためには、法人や施設理念が問われ、それを実践することが求められる。こ

れからは、画一的な福祉ではなく、個性と特色のある福祉の時代である。キングス・ガーデンは、これまでキリスト教の信仰と精神に基づき、特色のある福祉の働きを行ってきた。これからは、その特色をさらに発揮できるようになるであろう。

1 主に仕えるように

キングス・ガーデンは、「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」と言われたキリストのことばに従い、主に仕える精神で介護の働きを行ってきた。「これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たち」とは、効率主義に生きる人々の目には役に立たないと思われ、社会的にあまり評価されない人たちのことであるといえるだろう。経済的利益を追求する現代の競争社会においては、そのような者は見捨てられ、無視されるだけである。しかし、キリストはそのような者を限りなく愛し、「わたしの兄弟」と言っておられる。

キングス・ガーデンは、キリストの精神に従い、そのような人たちの人権と人格を限りなく大切にし、キリストに仕えるように仕える。この社会の人間的な価値観を超え、真実に人に仕えるのである。

福祉は人である、と言われていた。

まず、施設の管理運営に携わる理事長や施設長、生活指導員の存在と働きは大きく、その人によってすべては大きく変わってくる。キングス・ガーデンの精神をよく体得し、管理能力のあるリーダーが求められる。幸い、キングス・ガーデン関係の諸施設長は、使命感にあふれ、資質と能力のある人たちが備えられていることは感謝なことである。また、日本キングス・ガーデン連合は、そのようなリーダーのために毎年研修会を開催し、理念とノウハウを共に学び、共有することに努めている。

介護保険制度になり、会計や経理のあり方、その実務も大きく変わり、新しい理念と会計基準に基づいて行なわれるようになった。その切り替えに追われたが、キングス・ガーデンの諸施設は迅速に切り替え、コンピュータのソフトも新しく導

入し、効率化を図っている。事務職員は、その激しい変化によく適応し、スムーズに働きを行なっている。

直接処遇に携わる職員の存在は重く、その働きは重要である。直接介護に携わるために、非常に大切な働きであるが、幸い、キングス・ガーデンの諸施設は多くのすぐれた介護職員に恵まれている。特に若い職員がキリストの心を持って働いている姿には頭が下がる思いがする。一般に報道されている現代の若者たちとは全く異なる姿がそこにある。

高齢者福祉は、健康と生命に深く関わっており、医師と看護婦の存在と働きは重たい。多くのすぐれた看護婦が働いておられるが、それでもなおすぐれたクリスチャンナースの確保が求められている。管理栄養士の働きも重要で、入居者や利用者に食事の楽しみと健康を与えるために努力している。

これからの福祉は、地域社会に仕える働きであり、ショートステイ、デイサービス、在宅介護支援センター、ホームヘルプ事業などを通して行なわれている。そこでは、地域社会との深いかわりがあり、家庭との生きたふれあいがある。クリス

いであつたが、快く受け容れ、協力をはじめてくださった。

毎日、職員と入居者の集会でメッセージをし、希望者にはカウンセリングをしてくださるようになった。精神的に励まされ、救われてバプテスマを受ける方が多く現われるようになった。そこで、筑波、練馬においても協力牧師会をつくり、同じように奉仕をしていただいている。新しくつくろうとしている草加キングス・ガーデンのためにも、すでに協力牧師会ができています。

この協力牧師会の働きによって、施設の霊性は整えられてくる。精神的な諸問題も解決し、職員はますます親切に、入居者はますます輝いている、と言われるようになった。キリストを信じてバプテスマを受ける方が多く現われるようになり、キングス・ガーデンは天国の凱旋門とも言われるようになった。死に対する恐れはなくなり、死はもはやタブーではなくなった。

キングス・ガーデンはターミナル・ケア（終末ケア）を、医師と看護婦の協力を得て行なっているが、家族の要望があれば施設内で牧師の協力によって葬儀なども行なうことができるようになった。

チャンの女性で、子育ても終わった方は、ホーム・ヘルパーの資格を取って働かれるとよいのではないだろうか。安定した収入を得ることができるし、地の塩・世の光として社会に証しすることもできる。日本の社会は病んでいるし、家庭は悩みにあふれている。その社会と家庭に仕えることも、大切な働きである。

2 協力牧師会

キングス・ガーデンは、すでに述べたようにトータル・ケアを目指しているが、それを実現するためには多くの方の協力が必要である。特に、スピリチュアル・ケア（霊的ケア）のために、協力牧師会の存在と働きは欠くことができない。

最初、川越キングス・ガーデンにおいて協力牧師会をつくる時、埼玉県にある諸教会の牧師先生に集まっていたとき、四つをお願いをした。第一に、折ってください。第二に、集会和カウンセリングで奉仕してください。第三に、良い職員とボランティアを派遣してください。第四に、献金してください。まことに勝手なお願い

などのために、三、四名の方が世話人として奉仕しておられる。また、年に一回全体会を持ち、連絡と研修の時としている。

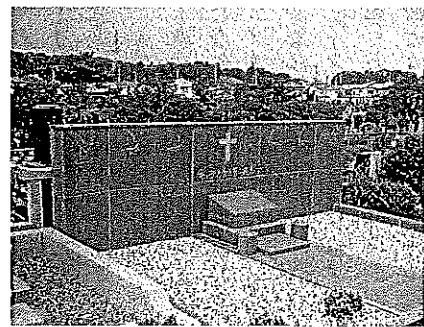
協力牧師会によって、キングス・ガーデンは教会と地域と密接に結び合わされ、福祉は社会と教会の働きであると理解されるようになった。それによって、キングス・ガーデンの働きは全体として充実し、健全になった。

3 ボランティア活動

先日、役所の福祉担当者と話しているとき、「キングス・ガーデンはボランティア活動が充実していますね」と言われた。

確かに、キングス・ガーデンは多くのボランティアによって支えられ、育てられている。それによって、さらにゆとりのある充実したケアが行なわれるようになった。ボランティアは、主として教会と地域社会から遣わされてくる。

まず、教会からであるが、協力牧師会の牧師の勧めと教会の推薦によって、多く



川越キングス・ガーデンの墓地

なった。

協力牧師会は平均して三十名前後の牧師によって構成され、毎日の集会のために、平均して月に一回程度メッセージで奉仕していただいている。その連絡、アレンジ

川越キングス・ガーデンは、近くにある武蔵野公園の一面を取得し、立派な墓地を完成した。希望者は、実費で利用することができる。筑波キングス・ガーデンはチャペルの中に納骨堂があるが、墓地の建設も検討している。

私は、四十年前、教会のために墓地をつくった。日本人にとって墓のない人生はハカなく、伝道もハカバカしく進まないで、ボチボチ墓地をつくりましょう、と準備した。それによって、家族の信頼を得、求道者はバプテスマを受け、教会員は安心して信仰生活を過ごすように

の教会の青年と婦人たちが来られる。それぞれの施設にはボランティア・コーディネーターが配置されており、相談しながらボランティア活動ができるようになっていく。自らの特技を生かし、施設の必要に応じ、介護の手伝い、施設の整備、時には入居者の話を聞いてくださるだけでもよい。イースターやクリスマスの特別行事はまさに出番で、教会における奉仕の経験を生かしながら、施設でも奉仕していただきたいと思う。

次に、地域社会からで、地域におけるグループや学校関係の活躍が目覚ましい。練馬区春日町に、「こぶしの会」という住民グループがあり、福祉施設をつくるために、長年空き缶回収などの働きをしてきた。練馬キングス・ガーデンをつくる話を区役所で聞き、リーダーの方から電話がかかってきた。

「老人ホームをつくると聞きました。そこらはキリスト教だそうです、例のあれではないでしょうね」

「例のあれ」とは、エホバの証人のことらしく、変なキリスト教ではないでしょうね、という意味のようであつた。そこで、私は答えて言った。

「例のあれであるかどうか、おいでくださいば説明します」

数名のリーダーたちが来られ、キリスト教のこと、エホバの証人のこと、計画している老人ホームのことなどを詳しく説明した。すると非常に安心し、これまで空き缶の回収などで集められた、文字通り汗の結晶である五百万円を超える資金を寄付したいと申し出られた。完成したのちも、ボランティアの中核としてすばらしい奉仕活動をしてもらえる。

練馬キングス・ガーデンに隣接して、都立練馬工業高校がある。その生徒たちが車椅子の修理などの奉仕をはじめ、最近ではPTAの皆様が積極的に奉仕している。幼稚園、保育園の園児が、折りにふれて可愛い歌で慰めてくれる。地域社会には、多くの音楽、舞踊、趣味のサークルがあるが、それぞれの特技を生かして奉仕してくださる。私たちの教会員で美容師、理容師の方々もいるが、施設でも良い奉仕をしている。

筑波キングス・ガーデンは、毎年十一月、バザーを開いている。近くの町や村から千人を超える方が集い、地域の大きなイベントになっている。そのバザーのため

に、多くの地域住民が、献品、準備、販売などのために奉仕され、施設と地域社会が一つに溶け合っている。

このように、キングス・ガーデンの働きは、地域社会においてキリストに仕える精神で高齢者に仕え、教会と社会に支えられながら、その働きを行なっている。それによって、高齢者に仕える精神は、社会のすべての人たちの間にも広がっていくのである。

第四章 すべてが益となる

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」(ローマ八・二八)。

キングス・ガーデンの働きを通して教えられたことは、神の導きと働きである。さまざまな問題や試練も多くあつたが、神はすべてが益となるように共に働いておられることを知った。

私は日本キングス・ガーデンの理事長に就任したとき、問題が起こると松山潔先生に電話し、よく相談した。そのとき、先生はいつも言われた。

「祈りましょう。主が最善をしてくださる」

佐藤さんは気仙沼にキングス・ガーデンをつくるとき、すでに述べたように、人間の力を超えた困難に直面したとき、いつも静かな山にこもって祈られた。大きな働きには、多くの祈りが必要である。パウロは勧めている。

「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもつてささげる祈りと願いによつて、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってくれます」(ペリピ四・六―七)。

1 のぞみ丘診療所

理事長になって間もなくのこと、クリスチャンの医師である村田氏と土岐氏が訪ねて来られた。何らかの方法でキングス・ガーデンの働きに協力したい、とのことであった。私は非常に喜び、主に感謝した。しかし、いろいろ調べてみると、社会福祉法人の事業の中で医療活動をするとはきわめてむずかしいことがわかった。

そこで、手をつけることもなく、数年が経った。電話で、土岐先生のお父様から会いたい、とのご連絡を受けた。お父様もクリスチャンの医師で、群馬県の医師会の会長をしておられた。お茶の水で食事をしながら話し、

「息子の件はどうなりましたか」

と尋ねられた。具体的に回答することができないので、

「祈らせてください」と

とだけ申し上げた。

次の週、水海道市の市会議員が松山先生を訪ね、

「キングス・ガーデンの入口に土地を持っている人が、土地を売ってもよいと言っているが、どうですか」

と言った。値段はいくらでもよい、という。

私は早速、土岐先生に連絡し、その土地に診療所をつくつたらどうか、と提案した。土岐先生も非常に喜ばれ、計画は急に具体化した。土地を安く取得できたので、土岐先生はキングス・ガーデンに多額の寄付をしてくださった。牧野施設長は法律

とその実務に明るいので、農地転用、医療法人の設立、診療所の建設と開設のために尽力してくださった。すべてが急に、またスムーズに進み、診療所が誕生した。私はそのとき神の導きと働きを強く感じた。

診療所の開所式るとき、土地を売ってくれた方も来られたが、さえない表情であった。そこで、その方に申し上げた。

「あなたの主治医ができて良かったね」

とたんに顔は明るく輝いた。

診療所ができて、キングス・ガーデンの入居者、特に軽費老人ホームの入居者は非常に安心した。それまで、風邪を引いただけでも車で水海道市の病院にまで行かなければならなかった。これからは歩いて三十秒で診療所に行くことができる。土岐先生は、特別養護老人ホームの嘱託医として、毎日のように往診してくださるようになった。静かで穏やかな人柄は、すべての人に安心と信頼を与えている。

2 ピンチはチャンス

一九九九年八月十四日の朝、川越キングス・ガーデンの児島施設長から電話がかかってきた。

「今回の台風は異常で、特養はすべて浸水しそうです。これから入居者のすべてを隣のケアハウスに移します。祈ってください」

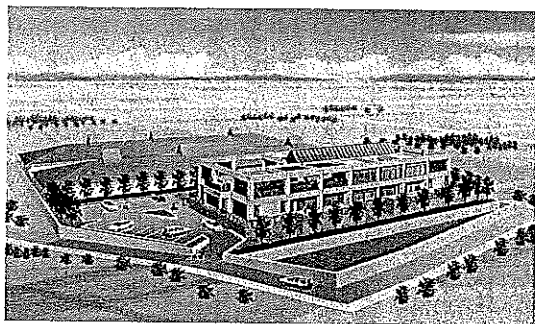
周囲はすでに湖のようになっていたので、施設長をはじめすべての職員は腰まで水に浸かりながら、入居者を救命ボートに乗せて、ケアハウス「主の園」に移した。水位は上がり、二メートル土盛りをしてその上に建てられた施設の床は八六センチまで冠水した。これまでにない水害であり、近隣の人たちも経験したことのない出来事であった。

私が行ったときは、水はほとんど引いていたが、床は泥水が漂い、ベッド、机、衣類、コンピューターなどが無残にもあちこちに転がっていた。専門家の試算によ

高い塀をめぐる計画を立て、埼玉県に打診した。それに対し、県からは、美観を損ね入居者に閉塞感を与えるので好ましくない、それほど心配であるなら前庭をメートル土盛りし、避難をかねて二階建ての建物を建てたらどうか、との意向が示された。私たちはその意向を受けて三十床の増床を決め、市と県の承認を得ることができた。飄算から駒、水害から増床、神の不思議な導きであった。

二〇〇〇年五月、倉形彰氏から草加市が高齢者施設の建設を一般公募しているの
で、キングス・ガーデンも参加したらどうかと勧められた。早速、中嶋副理事
長と相談し、企画書、設計図、資金計画表などを二週間で作成し、提出した。一都
四県から十九の社会福祉法人が参加し、最終的にキングス・ガーデンが選ばれた。
それには三つの理由があったという。第一にケアがすぐれている。第二は経営が安
定している。第三はターミナルケアをしている。市や議会の関係者が川越キング
ス・ガーデンを視察したとき、職員の状態と接遇が非常に良く、入居者の表情が穏
やかで輝いていることに、深い感銘を受けたとのことであった。

草加市に挨拶に赴き、市長にお会いしたとき、言われた。



川越キングス・ガーデン増床のパス

ると、復旧に一億四千万円はかかるという。私は絶望的な気分に見舞われ、再建は無理だと覚悟した。しかし、そのとき折り、思いを変えた。見直してみると、感謝することが多くあることに気づいた。第一に入居者が全員無事である。第二に施設長をはじめすべての職員が一致して働いている。第三に百名近いボランティアが駆けつけ、献身的に奉仕している。それらを知ったとき、感謝の思いにあふれた。

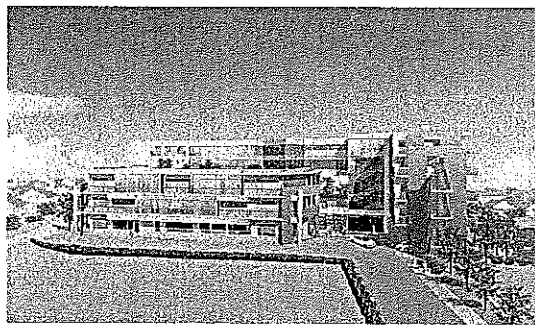
復旧には一億円近くかかったが、国や県からの災害補償と多くの方からの見舞金と献金で、それらのほとんどを支払うことができた。施設は新しく生まれ変わった。しかし、再びこのような災害に遭うことを心配し、理事会は周囲に

日本における高齢者福祉は、すでに述べたように、国費による措置から国民の保険料による制度となり、国民の間にはなお多くのとまどいと不安がある。また、福祉の施設を運営し、働く者たちにも多くの不安があった。試算してみると、特別養護老人ホームでは約一〇から二〇パーセント、デイ・サービスでは四〇パーセントの収入減になりそうである。施設は利用者によって選ばれるが、その確保はできる

3 新しい福祉の時代

つくる計画をしていたが挫折し、キングス・ガーデンに依頼があった。中嶋副理事長が建設委員長になり、関係者の間を調整し、軌道に乗せることができた。加藤久仁夫氏と山崎公三氏、大上仁氏が担当して準備を進め、二〇〇七年三月に着工した。二〇〇八年一月に完成、四月に開設、百二十名の方が入居された。

キングス・ガーデン埼玉の歩みを振り返ると、しばしば大きなピンチに襲われてきたが、主なる神はそれをチャンスに変えられ、大きく発展している。



草加キングス・ガーデンのパス

「これまで多くの問題があり、難産でした。よろしく願います」

そこで、私は申し上げた。「難産の子ほど立派に育ちます。楽しみにしてください」

しかし、それから難産であった。近隣住民の反対もあり、中嶋副理事長は幾度も足を運んで説得し、やっと同意を取りつけることができた。住民の要望や県の指導もあり、当初予定していた建設費は二億五千万円増え、三十億円近くになり、資金調達の問題もある。しかし、主はすべてを導き、最善をしてくださることを確信した。二〇〇一年秋に着工、二〇〇三年春に完成・開設した。

二〇〇六年川口市で、ある法人が福祉施設を

のであろうか。介護保険制度への移行のために、調査、認定、それに基づくケアプランの作成、利用者への説明と契約書の作成、新しい会計基準への変更と、おびただしい作業が待ち構えている。

そこで、一年前から準備にかかった。まず、特色のある施設づくり。キングス・ガーデンはキリスト教の精神に基づき愛のケアを行なっているもので、その特色を大いに発揮できるようにする。草加にキングス・ガーデンをつくるタイミングにも、その特色が認められ、評価された。直接接遇に当たる介護職員の訓練と充実に力を注いだ。次に、組織と体勢を統合化し、共に協力しながら働くようにすることである。特養部門と在宅部門を統合的に統一するようにした。

最後には、効率化である。コンピュータを全面的に導入し、接遇から保険料請求まで一貫したプログラムをつくり、効率化を図った。慣れるまで大変であったが、慣れるとゆとりのある働きが行なわれるようになった。

多くのボランティアによる奉仕は、それによって充実した介護ができるようになっただけでなく、多くの人に支えられる施設づくりにも貢献した。教会と社会に支

えられている福祉は、ボランティアによって育てられることがよくわかった。

もともと日本における福祉は、個人の善意と犠牲による慈善活動であった。それが国による福祉政策となり、やがて国民の保険による制度と移ったのである。そこでは社会に支えられた福祉が理念となり、ある意味ではボランティアによって実現していると言うことができるであろう。

介護保険制度に移ることに大きな不安があったが、キングス・ガーデンは良い成果を現わし、安定した運営・経営を行っている。

まず、施設の特色が自由に発揮できるようになった。キングス・ガーデンはキリスト教の信仰に基づく愛の介護を目指してきたが、それがすぐれた特色として一般にも評価されるようになったのである。宗教のために福祉を利用するのではなく、信仰によって福祉にいのちと特色を与えることができるからである。

次に、教会と社会に支えられている祝福である。協力牧師会の働き、多くのボランティアの活動、継続的にささげられる寄付や献金によって、充実しゆとりのあるケアが行なわれるようになった。これは、他の施設にはない、大きな特色であると

思う。

日本における高齢者福祉は、最初は個人や宗教団体などによる慈善事業として行なわれてきた。個人や民間の団体と犠牲によって行なわれ、動機は非常に純粋であった。しかし、その資力と働きには限界があった。

一九六〇年になって、国つまり行政による福祉が行なわれるようになり、養護老人ホームや軽費老人ホームが生まれた。養護老人ホームは、生活に困っている老人に食事と宿泊の場を提供する救済事業としての福祉であった。軽費老人ホームは、比較的安い費用で利用できる施設であり、やはり経済的な理由でつくられた。一九六三年に「老人福祉法」が制定され、援助とともに老人の人権の尊重もうたわれるようになった。

一九七〇年代になり、特別養護老人ホームが生まれるが、救済事業というより家族事情による介護、特に身体的介護のための福祉という考え方に変わる。歴史的・社会的背景としては、高齢者の増加、少子化、核家族化による家庭における介護の

困難がある。つまり、経済的理由よりも社会的状況によって、施設を利用しなければならぬ人が増えたのである。軽費老人ホームに変わって、ケアハウスが生まれたのも、同じ社会的事情による。

特別養護老人ホームに入所するためには、福祉事務所に申請し、判定委員会の認定を受けなければならない。利用者は収入に応じてある程度の負担をしなければならないので、本人や家族の収入の調査も行なわれる。それにもかかわらず、特別養護老人ホームの入所希望者は非常に勢いで増え、一九八〇年代になると各地につくられるようになった。筑波キングス・ガーデンの特別養護老人ホームなどがつくられたのも、このころからである。

◆申請は、本人や家族のほか、近くの居宅介護支援事業者(ケアプラン作成事業者)や、介護保健施設にも頼めます。

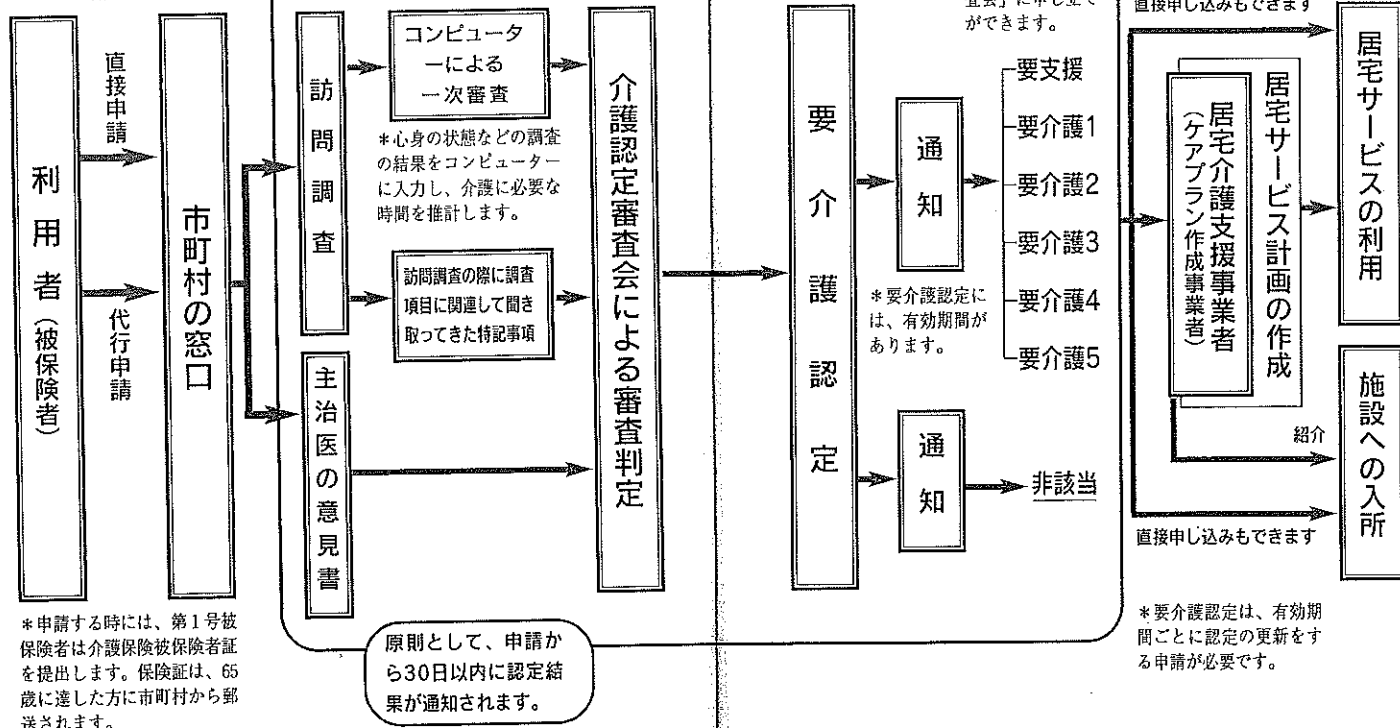
*認定の効果は申請の時点でさかのぼるので、申請をすればサービスを使い始めることができます。

*訪問調査は、市町村から委託を受けた居宅介護支援事業者等の訪問調査員が家庭等を訪問し、心身の状態などについて聞き取り、調査票に記入します。

*審査会の委員は、保健・医療・福祉に関する専門家5人程度で構成されます。

*認定結果に不服がある場合、都府県の「介護保険審査会」に申し立てができます。

直接申し込みもできます



第五章 上を見上げ、前に向かって

1 失意の中から

「兄弟たち、私は、自分で捕えたとは思っていません。ただ一つ、後のものを忘れ、前のものに全力を傾け、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄光を得るために、目標をめざして走っています」(ピリピ三・一二―一四)。

一九九〇年、六十歳を前にして、私は大きな試練に会い、失意の淵に突き落とされた。失望の中で、生きる気力も失せ、心臓の機能は乱れ、高血圧に悩まされ、夜も眠れなくなった。幸い、教会員や多くの方の折りによって、苦難の中にあっても支えられた。その時、コリント人への手紙第二、一二章九節の聖書のことばが与え

厚生省は総合的に高齢者福祉を推進するために、「高齢者保健福祉推進十ヶ年戦略」(ゴールドプラン)を作成し、一九九〇年から実施した。その結果、全国各地に、特別養護老人ホーム、老人保健施設がつくられるようになった。一九九五年には、それをさらに充実させた新ゴールドプランがつけられ、高齢者の福祉施設の整備は急速に進んだ。

このような国費による高齢者福祉に、また多くの問題も現われはじめる。まず、行政主導の福祉では利用者や家族の心情が理解されず、いわゆるお役所仕事になっ

てしまい、血の通った福祉ではなくなったという批判が現われるようになった。また、行政による厳しい指導によって、すべての施設が画一的になって、個性のある運営が行なわれなくなった。さらに、経済的不況などもあって、国の収入が減少し、国費による福祉にも限界が見え始めた。

国民は、保険料を払い、調査と審査に基づいてサービスを受け、収入に応じてではなく、サービスの経費の一〇パーセントを負担することになった。その利用のためのチャート(前頁参照)を参考にされるとよい。

られた。

「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに現われる」

このみことばによって、あらためて深く教えられた。それまで、自分の知恵や力に頼って、さまざまな働きをしていたのではなかったのか。ほんとうに神の恵みによって、神の働きをしていたのであろうか。神に問われ、深く反省した。

そこで、パウロは言っている。

「そこで、キリストの力が私の上に宿るために、むしろ私の弱さを大いに喜んで誇ります。それゆえ、私は、弱さ、侮辱、迫害、行き詰まりにおいても、キリストのために喜んでいます。弱いときこそ、私は強いからです」(同九一〇節)。

日本では、六十歳になると、還暦というお祝いがあるが、それは生まれ変わって新しい人生をはじめという意味でもある。私ももう一度生まれ変わって、新しい奉仕の人生を歩もうと決心した。

日本福音同盟の理事長に再選されたが、健康上の理由でお断りした。日本バプテスト教会連合の理事長の職も、良い機会を得てスムーズに退くことにした。キリ

スト教界におけるすべての責任から離れ、社会的にかえりみられない人たちのために、残りの人生をささげたいと考えるようになった。

あらためて、聖書を読み直し、「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらの……最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」(マタイ二五・四〇)と言われたイエス・キリストのことばの深い意味を教えられた。そのみことばを、自らの生き方として受けとめ、すべての名誉と利益を求めず、最も小さい者に仕えることを決意した。

この世においては偉大な人が尊敬され、地位のある者が誉められる。しかし、神の価値観とイエスの視点はそれらとは本質的に違い、かえりみられない最も小さい者こそ最も尊い。それゆえに、最も小さい者に仕えることが、最も尊いのである。そこに、私たちの生き方の原点、福祉の基本があるように思われた。

2 実を結ぶ秋

ポール・トゥルニエは、『人生の四季』(ヨルダン社)の中で、二十歳ごろまでを生長する春、四十歳ごろまでを活躍する夏、六十歳ごろまでを実を結ぶ秋、八十歳ごろまでを成熟する冬になぞらえている。人間の平均年齢が長くなった今日、六十歳を過ぎても実を結ぶ季節であるように思われる。

日本福音同盟の責任から離れて間もなく、教会員の石井成就さんが相談にいられた。ある市の市長までされたが、ご長男が大学生の時に心の病にかかり、それがきっかけになって求道し、家族揃ってクリスチャンになられた方である。また、精神障害者の家族会をつくり、会長としても活躍しておられた。

「キリスト教の精神で、精神障害者のための施設をつくりましょう。私が実務面はすべて行ないますから」

と言われたので、私も協力することにした。しかし、石井さんは間もなく主のもと

に召され、私が設立をはじめすべての働きを担わなければならなくなった。そこで練馬区内にある教会の協力を得、東京都や練馬区と話し合い、共同作業所「ホサナシヨップ」をつくった。続いて、彼らの安住の場として、「ホサナホーム」と「第二ホサナホーム」が生まれた。

不安な時代の中で、心の病は複雑になり、また非常な勢いで増えている。これからますます重要になる働きの分野であり、教会の責任は重い。

日本において最後のクルセードをしたいという話が、ビリー・グラハム伝道協会から伝えられた。さまざまな意見があったが、東京において行なうことになり、その大会会長の重責を負うことになった。最初は固辞したが、最後の奉仕のつもりで引き受けることにした。教会を礎とした実り多い大会になるように、「教会から始まり教会に終わる」というコンセプトで、東京ドームで行なうことになった。

一九九四年、約一週間大会は行なわれ、毎夜数万人の方が集い、多くの方、特に社会で活躍している男性が救われた。統計によると、その年と次の年にはバプテスマを受けた方が急増しており、豊かな実を結んだと思う。

キングス・ガーデン関係では、川越に特別養護老人ホームに続いてケアハウスが生まれ、さらに草加に大型の施設が完成した。また川口市に百二十名の特別養護老人ホームを建設中で、二〇〇八年四月に開設した。

東京では、近くに住んでいる区会議員の要請もあって、練馬区にキングス・ガーデンをつくる話が進み、協力体制を整えた。土地の確保、資金の調達、社会福祉法人の設立と多くの困難があったが多くの方々の折りと協力によって一九九六年に完成した。有楽町線平和台の駅に近く、公園に面した場所に、美しい建物が建ち、充実したケアが行われている。優れた介護は高く評価され、地元住民のオアシスとなり、行政関係者からも期待されている。

筑波キングス・ガーデンは近くに土岐医師の努力によって診療所が生まれたが、一九九八年には宇都宮施設長の尽力によって地域福祉の拠点となる在宅福祉棟が立派に完成した。障害者のための福祉も大きな夢であったが、近隣の四市が協力し、八千坪の土地に「常総ふれあいの杜」が完成し、二〇〇七年七月竣工式を行った。高齢者と障害者が共に仕えながら共に生きる新しい福祉が行われる働きが始まった。

軽井沢で建築会社を営んでいる関口孝辞氏は、キングス・ガーデンの働きにも深い関心を寄せていたがクリスチャンが静かで優雅な老後を過すために、「ケアホームシャロン」をつくり、二〇〇六年に開設した。定員六名のグループホームであり、家庭的な生活を共に過せるように願っている。

加藤哲男氏は、新潟市で事業を行いながら福音の宣教にも励んでおられるが、キングス・ガーデンの理念に深く共鳴し、連合の研修会に出席されていた。新潟市に「高齢者総合ケアセンター カナン」をつくり、二〇〇七年八月二十九日に竣工式を行い、泉田は出席しメッセージを送った。

私は、ノーマイブル・ノープレックファスト（聖書を味あわないで朝食は摂らない）の教えに従って、毎朝四時から七時まで聖書を読み続けた。その聖書の学びをさらに深く集中して行うために、聖書の翻訳を始め、二十年続けてきた。そのことを知った日本国際ギデオンの協会は、新改訳聖書、新共同訳聖書に続く第三の聖書として使用したいと申し出られた。全く想定外のことであるが、多くの若い方に関わりやすい聖書が届けられることを願い、受け入れた。二〇〇六年一〇月から配布

され、さいわい好評で毎月三万冊の聖書が中学生、高校生、大学生達に配布されているという。さらに詩篇と箴言も翻訳し、新約聖書に加えて出版・配布されることになっている。私の切なる祈りはそれを読んだ若者が一人でも多く教会に集い、イエスをキリストと信じて救われることである。

さらに、ホテルや多くの福祉施設でも配布されるためには、詩篇つきの新約聖書が必要であり、現在は詩篇の翻訳をしている。

3 上を見上げ、前に向かって

年を重ね、年を取ると、考え方と生き方に微妙な変化が現われ、それは人によって大きな違いとなってくる。ある者は、失うものを数え、悲観的になってしまう。仕事と社会的地位を失い、親しい者を亡くし、健康を害し、死も近づく、すべてに絶望的になる。長い人生における経験と生き方にとらわれ、新しい創造的な生き方ができなくなる。「昔は良かったが、今の若者たちは」という愚痴が絶えず口から

出てくる。将来の不安のゆえに、守る姿勢が強くなり、自分の世界について閉じこもってしまう。適応力は弱くなり、新しい働きを創造的にこなすことができなくなる。パウロは、人生の終わりに、多くの手紙を書いている。その一つがピリピ人への手紙である。獄中で書かれたものだが、「喜びの手紙」とも言われ、「喜びなさい」という勧めのことがあふれている。その中の三章一三一―一四節において、彼は三つのことを勧めている。

第一は、「うしろのものを忘れ、前のものに全力を傾け」て進むことである。過去を無視するのではなく、過去にとらわれないのである。過去にとらわれるとき、その考えと生き方は後ろ向きになってしまう。年を重ねると、その傾向はますます強くなる。むしろ、前のものに全力を傾け、前向きに生きるように勧めている。

第二は、「キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得る」ために、全力を傾けることである。地上のことにとらわれるのではなく、上を見上げる。人間的な問題や利害ではなく、永遠のいのちの恵みと祝福を知り、神の栄冠を得るために生きるのである。私たちの最大の祝福は、永遠のいのちの恵みであり、天国の

第三は「目標をめざして走っています」である。生きるほんとうの意味を知り、生きる具体的な目標をめざして精一杯生きることとは、最もすばらしい人生である。そのような人生に定年はない。また、パウロは、「私たちのすでに達しているところを基準として、進むべきです」（一六節）とも述べ、現実の状況と状態をしつかりわきまえ、着実に目標をめざして全力を傾けて、走るように勧めている。それによつて、目標を達成することができる。

イエスは、歴史の中で歪められた神の真理をあらためて正しく教え、人間のニーズにトータルに応えようとしておられる。神の真理を教え、神の国の福音を伝える病める人をいやし、悪霊を追い出された。社会的に顧みられない貧しい人や弱い者に、最もすばらしい価値を見られ、最も大切にされた。そして、仕えられるのではなく、仕える者となられた。私は、そのイエスの教えと生き方から改めて教えられ、大きな働きをするのではなく、小さな者に仕える者になりたいと思うようになった。キリストに倣い、上におられる神を見上げ、前に向かって精一杯生きていきたい。

「資料」キングス・ガーデン関連施設一覧

- 3 日町ブランチ (デイ) (空き店舗活用)
宮城県気仙沼市三日町一丁目一八八番〇三二六二二五三三〇
- 2 幸町ブランチ (就労継続支援B型事業)
宮城県気仙沼市幸町四五九番〇〇三二六二二九四一四
- 1 キングス・タウン (特養) ショート/デイ/ホームヘルプ/支援センター
宮城県気仙沼市三日町二丁目二二一〇二二六二四三〇〇二六二四三二二五三
大曲コミュニティセンター (地域福祉 岩瀬)
- 6 宮城県気仙沼市九条一丁目〇二二六二四三三八五
南三陸キングス・ガーデン (ケアハウス/デイ/ホームヘルプ/支援センター/訪問入浴介護/ケアプランニング)
宮城県気仙沼市南三陸台六四三番〇三二六二六一一〇二二六二六一一三三五
星谷プラチナ (グループホーム)
- 7 宮城県気仙沼市石月星谷一六三二番〇二二六二六一一三三〇
南三陸訪問看護ステーション (訪問介護)
- 8 宮城県気仙沼市沖町二二三二番〇二二六二二六八九五五〇二二六二二五八八五
ケアホーム わかみやの郷 (デイ/ホームヘルプ/ケアマネージメント/有料老人ホーム)
山形県沼田市若菜町二二二九二番〇三三四四二二五五六〇三三四二二二七〇
エデンの園 (特養)
- 9 福島県福島市山口字柳沢六〇一〇二二六二四三三三四〇三二四三三三四〇三三三
福島県福島市山口字柳沢六〇一〇二二六二四三三三四〇三二四三三三四〇三三三
聖ハートフルケア福島「十字の園」 (有料老人ホーム)
福島県福島市野田町字豆六七番〇二四四五七七八八八番〇二四四五七七八八六三

資料 キングス・ガーデン関連施設一覧

- [illegible]

- 33 ベタニヤ在宅介護複合施設（ショート／デイ／ホームヘルプ／支援センター）
三重県津市高野尾町一四〇六一〇 〇五九一三〇〇三三 〇五九一三〇一八三
ベタニヤハウス（ケアハウス）
三重県津市高野尾町一三八六八七 〇五九一三〇一五〇〇 〇五九一三〇一五〇一
いこいの家（小規模多機能型居宅介護／認知症対応型通所介護）
三重県松坂市岡本町字上川原四四四一 〇五九八二五二七三七 〇五九八二二二七五七
共生園（特養／ショート／デイ）
三重県度会郡大紀町野崎一七八五 〇五九八七四〇二二 〇五九八七四一四三七
大台共生園（特養／在宅介護複合施設）
三重県多気郡大台町千代九九七 〇五九八八四一六五二 〇五九八八五一〇〇五
やすらぎの介護（シャローム／デイ／グループホーム／有料老人ホーム）
大阪府堺市堺区大仙中町六二 〇四〇七二二四二二 〇六二六 〇七二二四二二〇二五
はまかせキングス・ガーデン（ボランティアグループとして活動中）
兵庫県神戸市北区緑町二二二九 〇七五八二五八三九 〇七五八三九
40 山路園（特養／ショート／デイ／支援センター／ホームヘルプ／ケアプラン／訪問看護）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
やまじいこい苑（ケアハウス）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
41 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
42 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
43 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
44 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
45 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
46 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
47 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
48 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
49 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
50 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
51 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
52 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
53 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
54 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
55 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
56 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
57 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
58 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
59 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
60 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
61 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
62 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
63 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
64 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
65 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
66 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
67 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
68 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
69 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
70 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
71 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
72 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
73 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
74 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
75 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
76 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
77 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
78 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
79 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
80 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
81 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
82 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
83 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
84 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
85 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
86 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
87 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
88 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
89 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
90 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
91 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
92 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
93 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
94 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
95 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
96 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
97 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
98 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
99 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一
100 呉ベタニヤホーム（ケアハウス／デイ／支援センター）
兵庫県丹波市山南町野坂一八一 〇七五七七三三六四 〇七五七七三三八一

あとがき

いのちのことは社の多胡会長と食事をしている時、「キングス・ガーデン物語」を書いてください、と言われ、一週間でこの原稿を書いて渡しました。出版部のスタッフの方々が、ワープロに打ち、編集し、立派な本にしてくださいました。心からお礼を申し上げます。

二〇〇七年九月

泉田 昭

夕暮れ時に、光がある

2001年5月20日発行
2010年2月10日5刷

著 者 泉 田 昭

印 刷 モリモト印刷株式会社

製 本 モリモト印刷株式会社

発行所 いのちのことは社

164-0001 東京都中野区中野2-1-5

TEL03-5341-6920

FAX03-5341-6921

e-mail:support@wlpn.or.jp

ホームページ <http://www.wlpn.or.jp/>

乱丁落丁はお取り替えます

Printed in Japan © 泉田 昭 2001

ISBN978-4-264-01914-5

新改訂版書 © 新日本聖書刊行会